



全国初！民間事業者が雨水貯留浸透施設を整備へ



～三井化学株式会社大牟田工場が浸水対策に取り組みます～



- 大牟田市では、令和5年3月に「大牟田市排水対策基本計画」を策定し、国が示す「流域治水」の考え方にに基づき、行政のみならず、あらゆる機関、市民が協働して取り組む効果的・効率的な浸水対策を講じることで、大きな災害が発生しても生命や財産を守っていくことができる「災害に強いまちづくり」を進めています。
- 今回、その一環として、三井化学株式会社大牟田工場が、大牟田川流域内の所有地においてオンサイト貯留施設※を整備することになりました。国土交通省の防災・安全交付金（流域貯留浸透事業）を活用して民間事業者が行う取り組みとしては、「全国初」となります。また、福岡県及び本市においても設置費用に対する補助を行い、これを支援します。
- この取り組みは、大牟田川流域の治水安全度の向上に寄与し、本市中心市街地における浸水被害の軽減につながることを期待されます。

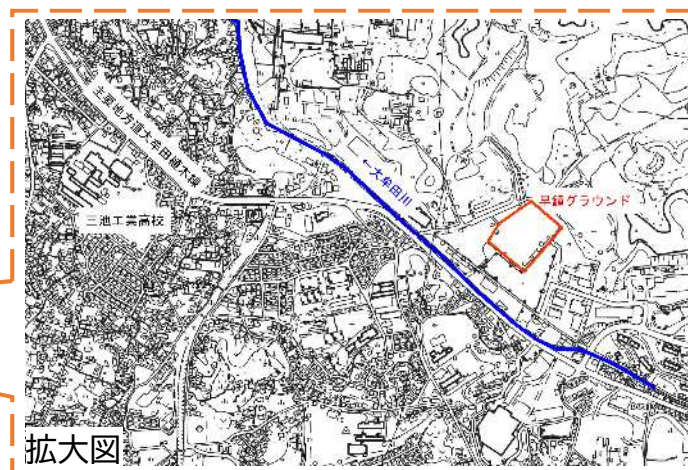
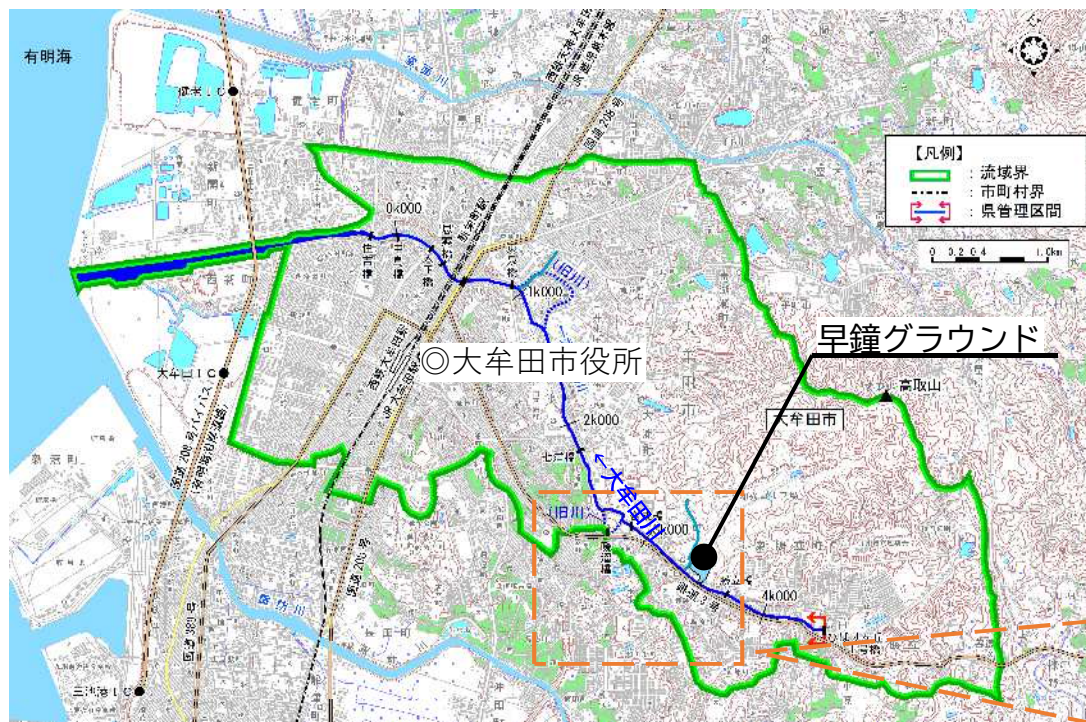
概要

- 事業者名：三井化学株式会社大牟田工場
- 設置場所：早鐘グラウンド（大牟田市早鐘34-1他、敷地面積約13,000㎡）
- 事業費：約18百万円（左記の内、5/6（国1/3、県1/3、市1/6）を補助）
- 事業期間：令和7年度





位置図



※オンサイト貯留施設とは

- 雨水の移動を最小限におさえ、雨が降った場所（現地）で貯留し、雨水の流出を抑制するもので現地貯留とも呼びます。公園、運動場、駐車場、集合住宅の棟間等の流域貯留施設あるいは、各戸貯留施設等がこれに当たります。

（出典：（公社）雨水貯留浸透技術協会HP）